

広域連携推進特別委員会

日時 令和5年9月21日（木）
午前10時
場所 八戸市議会 第一委員会室

1 他圏域における特徴的な取組について

資料1

2 第28回 連携中枢都市圏の形成に関する講演会の開催について

資料2

【配付資料】

資料1 他圏域における特徴的な取組について

資料2 第28回 連携中枢都市圏の形成に関する講演会の開催について

他圏域における特徴的な取組について①（備後圏域連携中枢都市圏）

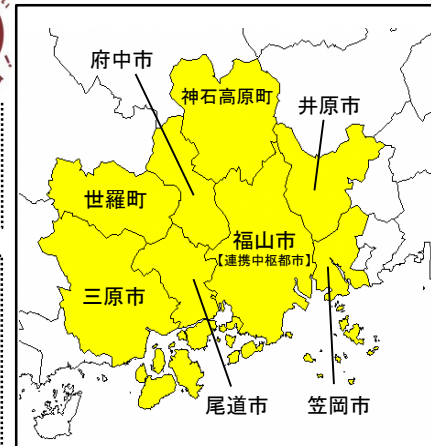
広域連携推進特別委員会
資料1
令和5年9月21日
総合政策部 政策推進課

圏域形成に至った経緯

- ・ 県境を越えて都市圏を形成しているが、江戸時代以前は備後国として一体であった地域。
- ・ 圏域の自治体の大部分は、昭和の高度成長期に「工業整備特別地域」に指定され、結び付きが強い地域。
- ・ 平成23年12月には、圏域の6市2町の市長・町長で組織する「備後圏域連携協議会」を立ち上げ、広域的な課題解決に向けた取組として、防災協定の締結やこども発達支援センターの共同運営などを行ってきた。
- ・ 平成27年3月、6市3町で全国に先駆けて連携協約を締結し、びんご圏域ビジョンを策定。

今後の展開

- ・ 令和2年3月に第2期ビジョンを策定し、ポストコロナを見据え、重点プロジェクトを中心に取組を強化。（経済循環の促進やデジタル技術の活用、県と連携した医療提供体制の確保 など）
- ・ 令和5年4月に連携市町から職員を受け入れ、備後圏域連携推進室を設置。第3期ビジョンの策定や新たな事業の構築に向け、市町間の連携を更に推進する。



圏域全体の経済成長のけん引

備中備後ジャパンデニムプロジェクト

圏域の共通資源である「デニム」を活用した事業として、産学官民と連携して「備中備後デニム商品化コンテスト」などを実施。（応募総数303件）

令和5年度は、市場調査や現状分析、事業者ヒアリングなどを行い、デニム産地としての認知度向上に向けて、今後のプロジェクトの方向性を示すロードマップを作成予定。



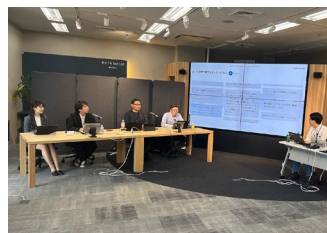
【最優秀作品】
『風呂敷』

【優秀作品】
『ランドセルカバー』

デジタル化の推進（びんごデジタルラボ・びんごICT相談所）

中小企業のデジタル化等を支援するため、セミナー形式で企業のデジタル化の成功事例を共有する「びんごデジタルラボ」とICT化の相談窓口「びんごICT相談所」を一体的に運営。

令和5年度は、連携市町で出張ICT相談を実施し、中小企業支援を強化する他、企業向けデジタルサービスの展示会を開催予定。



高次の都市機能の集積・強化

医療提供体制の確保及びこども発達支援センターのオンライン診療

圏域内の安定した医療提供体制を確保するため、高度・急性期医療を担う福山市民病院の機能強化や、広島県ナースセンター・サテライト福山による離職中の看護師資格保有者への再就職支援などを実施。

また、子どもの発達障害に関する相談・診療を行う「こども発達支援センター」において、令和5年8月から来所が困難な再診利用者に対して、オンライン診療を開始予定。



圏域全体の生活関連機能サービスの向上

医療版ワーケーション（医師の確保）

不足している小児科医の確保のため、医師人材のプラットフォーム運営会社などと連携して「医療版ワーケーション」を実施。

小児科医は、医療機関で従事するほか、観光、食事など圏域の魅力を体験しながら、SNSで情報発信。（参加医師数：8人（令和4年度））



他圏域における特徴的な取組について②（播磨圏域連携中枢都市圏）

圏域形成に至った経緯

- 旧播磨国に位置する市町が団結し平成24年に播磨広域連携協議会が発足。姫路市が同協議会構成市町に「新たな広域連携モデル構築事業」への参加を呼びかけ、平成26年に近隣の7市8町が参加を表明した。
- 姫路市が、「新たな広域連携モデル構築事業」モデル都市に選定され、播磨圏域経済成長戦略会議等の開催を重ね、平成27年4月には、うち6市8町と連携協約を締結し、播磨圏域都市圏ビジョンを策定した。
- 平成27年12月には、残り1市と連携協約を締結した（8市8町での形成）。

今後の展開

- 定期開催する担当課長会議や産官学金労言等で構成する播磨圏域成長戦略会議を通じ、56連携事業のフォローアップ及び新規事業の随時検討を行うことで、さらなる連携強化に取り組む。
- 圏域全体の経済成長をけん引するため、「ものづくり力の強化」「地域ブランドの育成」「交流人口の増加」という3つの戦略に基づいた施策・事業を展開することで、雇用促進、定住促進、地域活力の向上といった地域経済の好循環の実現を目指す。



圏域全体の経済成長のけん引

企業誘致の推進

圏域への企業誘致を促進し、圏域の産業振興、雇用確保を図るため、企業の圏域内への投資意向に関するアンケート調査及び広域企業誘致パンフレットの作成等を行う。

【臨海部に集積する企業群】



播磨地域ブランドの確立

播磨の風土を起点に、付加価値化できる戦略品目の種を播き、地域ブランド資産として磨き上げ、「醸造といえば播磨」を目指す「醸す・造る・播磨」プロジェクトに取り組む。



【ブランドロゴ】

圏域の観光動向の把握

圏域内における観光客の滞在日数の増加や、回遊性の向上など、より効果的な観光施策を推進するため、圏域内の観光動向について把握等を行う。

高次の都市機能の集積・強化

姫路駅周辺整備事業の推進

姫路駅周辺の鉄道操車場等跡地を活用し、商業施設、宿泊施設、医療専門学校等を誘致。令和3年9月に文化ホール、会議室、展示場を備えた交流拠点施設「アクリエひめじ」を開設。【姫路市文化コンベンションセンター】



圏域全体の生活関連機能サービスの向上

救急搬送支援システムの広域化

受入れ医療機関を広域的に確保することにより、搬送困難症例等の解消や搬送に要する時間の縮減を図ることができる救急搬送支援システムを圏域で共同運用する。

【救急搬送システムイメージ】



図書館の相互利用促進

圏域内の図書館において、域内在住の住民に対し、相互貸出し等のサービスを提供。また、利便性向上のため、マイナンバーカードでの利用促進を図る。

若年者等の就業支援

関係機関と連携し、若者サポートステーション事業や、合同就職説明会を共同開催するなど、圏域内の若者から高齢者まで幅広い方の就労・活用につながる各種就労支援事業を実施する。

公立夜間中学による就学の機会の提供

様々な理由により義務教育を終了できなかった住民に対し、義務教育を受ける機会を実質的に保障することを目的に、令和5年4月、播磨地域を主な対象エリアとする公立夜間中学「姫路市立あかつき中学校」を開校し、圏域内の多様な学びの場の充実を図る。

【校章】



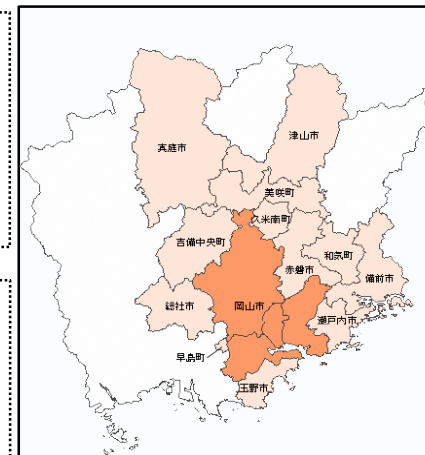
他圏域における特徴的な取組について③（岡山連携中枢都市圏）

圏域形成に至った経緯

- ・当該圏域は畿内と並んで古代に一大勢力を誇った吉備の国に含まれており、その後、備前、備中、美作等に分国
- ・岡山市中心部は戦国時代後期から江戸時代にかけて城下町として栄えるとともに、山陽道（西国街道）、津山往来等の街道や旭川、吉井川等の舟運を通じて近隣地域と深く結び付きながら相互に発展
- ・明治以降の人口増加局面を経て、近年では少子高齢化が進む中、圏域の持続可能な発展を図るため、平成28年10月に岡山市が近隣7市5町と連携協約を締結し、県人口の過半（110万人超）を占める岡山連携中枢都市圏を形成

今後の展開

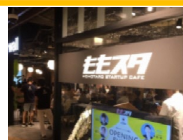
- ・圏域住民に「住みやすい」「住み続けたい」と思ってもらうとともに、圏域外の人にも「住んでみたい」と思ってもらえるような圏域を“創造”し、「住んでよかった」と誰もが実感できる、魅力にあふれ、“躍動”する“岡山都市圏”を目指すため、令和4年度からの第2期岡山連携中枢都市圏ビジョンに基づき、連携取組を着実に推進するとともに、隣の高梁川流域連携中枢都市圏との圏域間の連携にも取り組む



圏域全体の経済成長のけん引

スタートアップ企業支援

地域経済の担い手として期待されるスタートアップ企業を目指す層を増やし、多くのスタートアップ企業を生み出すため、スタートアップ支援拠点施設「ももたろう・スタートアップカフェ（ももスタ）」を運営



【ももたろう・スタートアップカフェ】

圏域内周遊に向けた歴史・文化資源発信

日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま」の構成文化財を巡る周遊企画や話題性のあるコンテンツ造成を行い、それらを情報発信することにより、圏域内を周遊する観光客や滞在時間の増加を促進

高梁川流域連携中枢都市圏と連携し、両圏域に存する7つの日本遺産を相互でPR（圏域間連携）



【日本遺産年間行事チラシ】

高次の都市機能の集積・強化

JRの利用促進と駅機能強化

駅の結節機能強化等による利便性向上を図るため、岡山駅前広場への路面電車乗り入れ整備

【駅前広場イメージ】



圏域全体の生活関連機能サービスの向上

夜間中学設置の検討・準備・運営

連携中枢都市である岡山市に設置を検討している夜間中学を圏域市町で活用することで、様々な理由により実質的に義務教育を受けることができなかった圏域住民等に対し就学の機会を確保



【授業体験会の様子】

岡山芸術創造劇場ハレノワを活用した文化連携

文化力向上による圏域活性化に向けて、文化芸術分野の活動・交流・発信の拠点として岡山芸術創造劇場ハレノワを岡山市が整備（R5.9.1グランドオープン）



【劇場外観】



【こけら落とし公演チラシ】

気候変動対策

太陽光発電設備等の更なる普及拡大を図るため、太陽光発電設備等共同購入事業を実施

家庭における太陽光発電設備の導入によるCO2削減量（＝環境価値）を、J-クレジット化する事業を実施

圏域におけるZEHの更なる普及拡大により、家庭部門の脱炭素化を促進することを目的として、新築ZEH・改築ZEHの無料宿泊体験を実施

第28回 連携中枢都市圏の形成に関する講演会の開催について

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 概 要 | 連携中枢都市圏の意義や先行する他団体の取組等について、理解と認識を深めることを目的として講演会を開催する。 |
| 2 | 主 催 | 八戸市 |
| 3 | 対 象 | 圏域市町村の議会議員、市町村長、住民、自治体職員等 |
| 4 | 開 催 日 | 令和5年11月9日（木） 15：30～16：40 |
| 5 | 会 場 | ユートリー1階 多目的大ホール |
| 6 | 内 容 | 演 題：G7 仙台科学技術大臣会合出展
移動型緊急手術室ドクターカーV3について（仮）
講 師：八戸工業大学 工学部工学科 准教授 浅川 拓克 氏
八戸市立市民病院 事業管理者 今 明秀 氏 |

- ※ 講演会の開催に合わせて、会場内にドクターカーV3及びパネルの展示を予定
- ※ 講演会終了後、ユートリーで交流会を開催予定